

SUPPORTER'S SELECTION

サポーターの皆さんのオススメ本です。本選びの参考にどうぞ♪



豊橋
オススメ

三島朱理さん





『君の臍臓を食べたい』
住野よる 著
(双葉社 2017)
豊図開架 913.6:Su63

この物語の主人公の高校生は、病院で“共病文庫”という1冊の本を拾った。それは、クラスメイトの山内咲良の秘密の日記帳であり、彼女の余命がわずかであることが書かれていた。皆さん、この本を読み終わった後、きっとこのタイトルの意味がわかり、涙すること間違いのないでしょう。住野よる氏のデビュー作で、映画化され話題になりました。何気ない日常を大切に生きていこうと思わせてくれます。ぜひ、読んでみてください。

豊橋
オススメ

櫻井綾さん





『流れ星が消えないうちに』
橋本 紡 著
(新潮社 2008) [新潮文庫]
名図文庫 913.6:H38

高校で出会った、加地君と巧君と奈緒子。しかし、突然の事故によって恋人同士だった奈緒子と加地君は、永遠に引き離されてしまった。加地君の思い出を抱きしめて離すことのできない奈緒子に、巧君はそっと手を差し伸べるが……。読んだあとにせつなさと共に暖かさを感じる新しい恋愛小説です。

豊橋
オススメ

大原拓弥さん





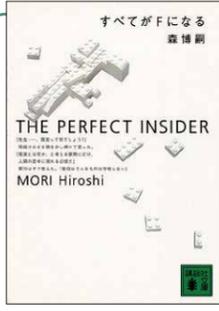
『西の魔女が死んだ』
梨木香歩 著
(新潮社 2001) [新潮文庫]
名図文庫 913.6:N55
外部書庫 913.6:N55

中学に通い始めてまもなく、学校に足が向かなくなり、不登校になった少女まいは、西の魔女ことおばあちゃんのもとで一ヶ月間過ごすことになった。まいはおばあちゃんから魔女の手ほどきを受けることになるのだが、魔女の修行で最も重要なことは「何でも自分で決めること」であった。この教えをまいは守れるのか、まいが最後に下した決断とは...

名古屋
オススメ

稲垣澄香さん





『すべてがFになる』
森 博嗣 著
(講談社 1996) [講談社文庫]
名図開架 913.6:Mo45

犀川研究室の旅行で、妃真加島に向かった犀川創平と研究室の面々。犀川の恩師の娘である西之園萌絵も参加していた。研究所に訪れた犀川と萌絵は、研究所に勤めるメンバーと共に不可思議な死体を見る。大学教授の犀川とその恩師の娘である西之園が事件解決に向けて動き出す。森博嗣氏のデビュー作であり、アニメを始め2015年には綾野剛が主演のドラマにもなった作品です。ワクワクドキの作品です！

豊橋
オススメ

西大聖さん





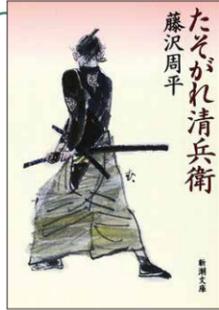
『竜馬がゆく』
司馬遼太郎 著
(文藝春秋 1972)
豊図第2書庫 918.68:Sh15:3~5
名図開架 918.68:Sh15:3~5

本書は歴史が苦手でも読みやすい作品であり坂本龍馬の生き様を通じ己の人生観を見直せる作品です。全8巻ある長編小説ですが龍馬の周りの意見に屈さず自分で主導する「カリスマ性」・船が好きということから待ながらも軍艦を作り幕府を倒す野望そして龍馬が魅せる「人を動かす力」には熱い気持ちになりました。自分に自信が持てない人・周りの目が気になる人に読んで欲しい男のカッコいい生き方が見られる作品だと思います。

名古屋
オススメ

香田麻那さん





『たそがれ清兵衛』
藤沢周平 著
(新潮社 2006) [新潮文庫]
名図文庫 913.6:F66

不名誉な渾名をつけられているうだつの上からない侍たちがひっそりと活躍する短編集。たそがれ、うらなり、ど忘れ.....などと馴染みられがちな下級武士が、剣の技によって危機を解決していく様は痛快です。なにより、8人の主人公たちは皆個性的で愛嬌があり、人間らしい魅力に溢れています。彼らの素朴な日常と活躍をぜひ読んでみてください。

豊橋
オススメ

小田七実さん





『青くて痛くて脆い』
住野よる 著
(KADOKAWA 2018)
豊図開架 913.6:Su63

「モアイ」は僕一楓と秋好がなりたい自分になるために作り上げた秘密結社だった。しかし、リーダーである秋好の理想と情熱を失ったモアイは次第に形を変えていった。モアイを離れて就活を終えた楓は、今は無きあの日の秋好の意志を引き継ぎ、奪われたモアイを否定するため動き出す。青くて痛い理想論のために、全力で戦おうとする主人公の姿に泣きたくなる一作。青春という言葉だけではまともめられないものが本書には詰まっています。

名古屋
オススメ

小林玲菜さん





『ロミオとジュリエット』
シェイクスピア 著 大場建治 編注訳
(研究社 2007)
豊図開架 932:Sh12:5
名図開架 932:Sh12:5

「ああ、ロミオ。どうしてあなたはロミオなの？」このセリフは誰もが知っていると思います。しかし、実際に皆さんはロミオとジュリエットを読んだことはあるでしょうか？有名なこのバルコニーのシーンしか知らないという方も少なくはないと思います。ロミオとジュリエットがどのように出会いそして、どういった結末を迎えるのか、あまりに有名なこのバルコニーのシーンが一体どんなシーンなのか。皆さんも一度ロミオとジュリエットを読んで確認してみてください！

豊橋
オススメ

鎌田楓鈴さん





『小さいときから考えてきたこと』
黒柳徹子 著
(新潮社 2001)
豊図開架 914.6:Ku78

黒柳徹子という人を知っていますか？多くの人の頭には、あの独特な髪型と話し方が浮かぶと思います。そして、「なんだか有名みたいけどどんな人なの？」と一度は気になったことがあるのではないのでしょうか。本書では、彼女の身に起こった珍事件や幼い頃の記憶が鮮明に面白おかしく描かれており、それらを通して黒柳徹子の魅力やユニークな思考を垣間見ることができます。短編集なので、ちょっとした息抜きにもオススメです。

名古屋
オススメ

野尻晴葉さん





『バウドリーノ』上・下
ウンベルト・エーコ 著
(岩波書店 2017) [岩波文庫]
豊図文庫 岩波文庫 973:E19:1~2
名図文庫 973:E19:1~2

舞台は中世、十字軍の時代。神聖ローマ皇帝の養子となった農民の子バウドリーノが自身の生涯を語る冒険小説。話した嘘が真実となってしまう言語の才能に恵まれた主人公が歴史の裏で仲間とともに活躍する物語です。虚実入り混じる西洋と東洋をまたいだ壮大な題材ながら、登場人物たちの軽妙な会話ややりとりによって明るい空気で読み進めることができました。当時のヨーロッパの空気を体感できたような没入感のある楽しさが味わえます。